



通信

新宮町こども家庭センター

おなかの赤ちゃんと 今日からはじめる親子の絆づくり

おなかの赤ちゃんとの絆は、
妊娠中からはじまっています

妊娠が分かったとき、嬉しさと同時に、戸惑いや不安を感じることもあるかもしれません。しかし特別なことはいりません。赤ちゃんを想うことがはじめの一步。ママやパパ、家族の声、生活の中の音、優しくなでるおなかのぬくもり。どれも赤ちゃんにとって大切な関わりです。声かけや触れ合いを通して、妊娠中から少しずつ親子の絆を育んでいきましょう。



赤ちゃんの聴覚

耳や目、口など赤ちゃんの感覚器官は、形としては妊娠2か月を過ぎ

たころにできています。そして妊娠6か月ごろから、聴覚の機能が発達し、ママの心音、血液が流れる音といったママのからだのなかの音が聞こえたり、音の区別もできたりします。7か月ごろからは外の音が聞こえるようになります。特にママの声は、からだの内側から響くため、最も身近に聞こえていると言われています。頑張っているママの特権ですね。

赤ちゃんへの声かけ

「おはよう」「今日はいいお天気だよ」など、おなかの赤ちゃんに、思ったことをそのまま伝えてみましょう。それは、赤ちゃんにとって初めての親子の会話になります。また、夜寝る前にはおなかの赤ちゃんを気にかける時間を作ってみるの也不错いと思います。絵本を読んだり、ママやパパの好きな音楽や童謡を優しく歌ってみたりしましょう。赤ちゃん

は少し低めの音の方が聞こえやすいと言われています。赤ちゃんが生まれた後も、寝かせるときに歌ってあげると、聞いたことがある声だ、と安心して寝てくれることもあります。



声かけのいいところ

○赤ちゃんの安心感につながる
ママやパパ、家族の声は、赤ちゃんにとってなじみのある音。生まれてからも、その声に反応しやすくなると言われています。

○ママ自身の心も整う

「今日も元気かな?」「会えるの楽しみだよ」などと語りかけることで、ママ自身が赤ちゃんの存在を実感し、穏やかな気持ちになる助けになります。特にパパの声かけは、ママの安心感にもつながるでしょう。

■問い合わせ先
町こども家庭センター「はぐうる」
(シーオーレ新宮内)
☎963-2995(直)

○家族との関係づくりにも
赤ちゃんにとって、ママだけでなく、パパやお兄ちゃんお姉ちゃんの声も大切な世界の一部。家族みんなでおなかに話しかけたり、おなかをなでてみたりしましょう。赤ちゃんの存在をもっと身近に感じられるのではないのでしょうか。



町では妊娠中に参加できる教室を開催しています(広報21ページ「子育て相談」参照)。妊娠中の過ごし方などのお話や相談ができます、とても良い機会になるかと思えます。ぜひご参加ください。